

施策	29	ふるさと意識の醸成	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	松下 徹	内線	3740
施策関係課名	歴史研究所、公民館、美術博物館、中央図書館、学校教育課				
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、飯田市立図書館サービス計画 飯田市歴史研究所第3期中期計画			
政策担当部長名	教育次長 三浦伸一				

1 施策の目的

目的	対象	市民
	意図	地域を知る 地域を誇りに思う

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	102,000
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数 (延人数)	人	49,693	41,358	48,465	59,169	46,032	48,112	52,000 42,000
ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民(成人) の割合	%	76.5	75.9	77.2	75.5	72.8	76.4	80.0
ふるさくに愛着を感じている高校生の割合	%	71.1	-	-	76.8	-	-	78.0 75.0
この地域に住み続けたいと考えている高校生の 割合	%	46.1	-	-	48.7	-	-	50.0

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法 と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
行政	市(国・県) 学習機会を提供する。 学習活動を支援する。 (学習活動には調査研究 活動も含む) 情報発信を行う。	学習機会の数(社会教育機 関における地域資産を活用し た学級・講座の開催実績を集 計、件)	1,423	1,636	1,855	2,076	1,900 4,200
		学習活動の支援数(市民等 の学習活動への共催・後援数 及び講師派遣等の支援数を 集計、件)	967	996	1,075	1,023	1,050 800
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法 と単位	役割発揮の特記事項				
市民等	個人、各種団 体 地域資源を調査研究 する学習活動を行う。 地域を学習する。 情報発信を行う。	地域学を担う団体数 情報発信数	・伊那谷研究団体協議会(伊那谷学の研究実践を 多様な分野で担う16団体で構成)から、「伊那谷学」 のとらえ方と、今後に向けた推進のあり方をまとめた 方針が打ち出され、ふるさと意識の醸成のために、 社会教育機関の事業や学校教育への積極的な連 携の考え方が示された。				

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・26年度の特徴的な取組みとしては、菱田春草生誕140周年と生誕地公園完成を記念し、美術博物館を中心に、特別展を中心とした各種展覧会、シンポジウム・ワークショップ・講座の開催、プラネトリウムを活用したドームシアター番組の制作等の顕彰事業を通年的に実施した。

・小中学生世代以降の若年世代のふるさと意識の醸成を目的に、高校生対象の事業の充実を図るとともに、伊那谷研究団体協議会との研究機関ネットワークを組んで、20～40歳代までの世代を重点対象にした「伊那谷の自然と文化」をテーマとする「学び合い講座」を継続開催した。

・歴史研究所においては、歴史研究所協議会を設置し、事業活動に市民や地域の研究者の意見が反映できるよう組織運営の改善に取り組んだ。

・これらの取組みを含め、施策の主管・関係課が連携して、多様なふるさと学習の機会の提供、地域資産の情報発信、地育力(地域資源×地域人材)を活用した各種事業を企画実施した。

【事務事業群テーマ別の評価】

<ふるさと学習の場づくり支援>

・美術博物館においては、「伊那谷の自然と文化」をテーマにした一般対象の専門講座、子供向けの教室等を開催し、多様な地域資産への理解を深める機会となる学習活動を支援した。

・歴史研究所においては、従来からの飯田アカデミア、地域史講座、歴研ゼミナール、「飯田・上飯田の歴史」をテーマにした出前講座に加えて、古文書入門講座を新たに実施した。

・公民館では、飯田OIDE長姫高校(商業科)・松本大学とのパートナーシップ協定に基づき、生徒が地域の歴史・文化・風土・産業を、地域の人の生き方に触れながら学ぶ「地域人教育」の学習活動を支援するとともに、飯伊地域の高校生を対象にした高校生講座及びカンボジアへのスタディーツアーを実施し、高校生世代がふるさとと自分の生き方を見つめ直し考え合う学習機会を提供した。

<地域資産に関する情報の発信>

・美術博物館では、南アルプスのユネスコエコパークへの登録を記念したパネル展示、国史跡となった恒川官衙遺跡の企画展示、南信州の煙火や、丘の上の魅力再発見をテーマとした特別陳列等を行い、地域資産の存在と価値を伝える情報発信に取り組んだ。

<郷土ゆかりの偉人の顕彰>

・菱田春草生誕140周年にあたり、美術博物館において、特別展を中心とした各種展覧会、シンポジウム・ワークショップ・講座の開催、プラネトリウムを活用したドームシアター番組「菱田春草の青春」の制作等の顕彰事業を通年的に実施した

<地育力の向上>

・地育力向上連携システム推進計画の26年度アクションプログラムに基づく事業推進と、27年度に向けたプログラムの見直し策定を行った。また、教育委員会職員を重点対象にした研修会を実施し、地育力コーディネーターとしての役割への自覚を高めた。

・伊那谷研究団体協議会と研究機関ネットワークを組んで、「伊那谷の自然と文化」をテーマにした「学び合い講座」を5回にわたり連続開催し、若年世代の発掘・拡大を行った。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

<ふるさと学習の場づくり支援>

・成人の地域理解やふるさと意識の向上を図るため、公民館、図書館、美術博物館、歴史研究所、生涯学習・スポーツ課が中心となり、多様なテーマ、ニーズをとらえたふるさと学習の機会を積極的に提供する。地域資産・資産への理解をさらに広げるために、事業実施の際には、特に、平易な内容、興味をひく内容を設定した入門的な学習機会の提供や、体験的な要素やワークショップをとり入れる等、学習形態における工夫にも留意する。

・25年度にまとめた飯田市教育委員会における「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針において、当面の共通テーマに据えた「交通と文化」、「飯田・上飯田の歴史と文化」、「小さな世界都市」をテーマとした学習事業を教育委員会の各機関が連携して企画開催する。

・就職・進学など人生の方向を自ら選択する高校生に対し、地域人教育や、高校生講座、海外へのスタディーツアー事業などを通して、地域を理解し、地域に愛着を持つ人を育てる高校生教育を推進する(小中学生を対象にしたふるさと学習については、施策2-2「義務教育の推進」の「ふるさと学習推進事業」、「体験活動推進事業」、「キャリア教育推進事業」で取り組む。)

<地域資産に関する情報の発信>

・「伊那谷の自然と文化」をテーマにした各種展示・公開事業や、郷土ゆかりの人物の顕彰事業等の更なる充実を図る。

<郷土ゆかりの偉人の顕彰>

・美術博物館においては、菱田春草の新たな顕彰事業について研究するとともに、田中芳夫のドームシアター番組の制作、自然・人文部門の常設展示の充実に向けた検討を進める。

・図書館、公民館等においても、郷土が生んだ様々な偉人に焦点をあてた学習事業等を実施する。

<地育力の向上>

・「伊那谷学」をテーマに調査・研究・情報発信活動を行っている伊那谷研究団体協議会とネットワークを組んで、「伊那谷学」を担う人材育成につながる連続講座を企画開催する。

・地育力向上連携システム推進計画の後期アクションプログラムの進行管理と、年度見直しを通して、教育委員会事務局全体で地育力の向上と、地育力を活用した事業推進を図る。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標 施策2-9

対象
市民

意図
地域を知る
地域を誇りに思う

成果指標

飯田の自然・歴史・文化を
学んでいる市民の数

ふるさとを誇りに思っている
市民(成人)の割合

ふるさに愛着を感じて
いる高校生の割合

この地域に住み続けたい
と考えている高校生の割合

ふるさと学習
の場づくり支援

地域資産に関する
情報の発信

「地育力」の向上

事務事業

美術博物館教育普及事業

歴史研究所教育事業

高校生等次世代育成事業

伊那谷自然史資料展示公開事業

伊那谷文化史資料展示公開事業

伊那谷美術展示公開事業

プラネタリウム運営事業

伊那谷の自然と文化データベース事業

南信濃民芸等関係施設展示更新事業

菱田春草顕彰事業

柳田國男調査研究事業

藤本四八写真文化賞事業

日夏耿之介顕彰事業

地育力向上連携システム推進事業

研究機関ネットワーク構築事業